

# 難民についての学習指導案

群馬県立桐生女子高等学校  
指導者 田中隆志

- 1 対象 高校生
- 2 現行学習指導要領との関連性
  - ・高校地理A「(1) 現代世界の特色と諸課題の地理的考察」の「ウ 地球的課題の地理的考察」
  - ・高校地理B「(3) 現代世界の系統地理的考察」の「イ 資源, 産業」「ウ 人口, 都市・村落」「エ 生活文化, 民族・宗教」

## 3 単元の目標

- 1 難民問題が, 世界各地で生起している様子や, その発生要因にどのような共通性があるのかを理解させる。
- 2 難民問題は, 持続可能な社会を実現するために, 人類が国境や地域を越えて地球的視野で協力して取り組むべき課題であるということを認識させる。

## 4 展開 (50分)

段階	学習活動及び学習内容 (生徒の活動)	指導上の留意点	時間
導入	<p>1 難民とは何か</p> <p>(1) 「映像①世界の難民 (1:00)」を視聴する。</p> <p>(2) グループで, 「難民」とはどのようなものか考えをまとめ, 発表する。</p> <p><b>【想定される発表】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住んでいた国や地域を追われる人たち。</li> <li>・死の危険から逃れるために, 外国に逃げている人たち。</li> </ul> <p>(3) 難民の発生要因としてなにがあるか, グループで話し合わせ, 発表させる。</p> <p><b>【想定される発表】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・戦争, 内戦, 飢饉, 海面上昇による生活場所の水没など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4～6人のグループ学習を行うことを確認。</li> <li>・「難民」とは何かを考えながら, 映像①を視聴させる。</li> <li>・「難民」とはどのようなものをいうか, グループで話し合い, 発表させる。</li> <li>・生徒の発表後, 一般的な定義としては「本国の迫害や危険を避けるため他国に逃れ, 移住する者」を示すことを伝える。</li> <li>・どのような理由で難民は発生しているのか, グループで話し合わせ, 発表させる。</li> <li>・発表後, 国内での経済的不満や生活困窮, さらに深刻な飢餓から逃れるために他国に逃れる「経済難民」と, 政治的意見や思想を理由とした迫害, 政治的な理由による内戦などを避けるため他国に逃れた「政治難民」に分かれることを示す。</li> <li>・国際的に, 政治難民については, 1951年難民条約(難民の地位に関する条約)で保護されていることを示す。</li> <li>・また難民と同様の事情をかかえつつ, 国外に出られない人々は, 国内避難民(IDP)と呼ばれることも示す。</li> <li>・現在, 難民は世界全体で6500万人(一国規模の人口)いて, とくに「戦争や内戦」を要因としたシリア, スーダン, アフガニスタンの政治難民が多いことを示す。</li> </ul>	10

本 論	<p>2 各地のシリア難民の実態</p> <p>(1) 「映像①各地の難民の様子 (3:52)」を視聴する。</p> <p>(2) 各地のシリア難民が、難民キャンプ、ドイツ、レバノンのそれぞれで、どのような生活を送っているか、また将来どうなることを望んでいるのか、グループで話し合い発表する。</p> <p><b>【想定される発表】</b></p> <p>《周辺国・ヨルダンのザータリ難民キャンプ》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生命の危険はない。ただ劣悪な生活環境。より衣食住が充足した文化的で衛生的な生活を送りたいと考えている。</li> </ul> <p>《第三国のドイツ》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現状の生活は落ち着いている。ただいつか祖国を復興させたい、祖国に戻りたいという思いをもっている。</li> </ul> <p>《周辺国のレバノン》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収入が少なく学校に子供たちを通わせる余裕はない。子供の将来を思うと、他の国に出る必要があると考えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界最大規模のシリア難民が、各地でどのような生活を送っているか、将来どうなることを望んでいるのかを考えて、映像視聴するように指示を出す。</li> <li>・視聴後、グループ内で意見をまとめさせ、発表させる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表後、周辺国の難民キャンプや、レバノンの生活は収入面、子供の教育面で課題がある。一方で第三国ドイツでは一見、その点の心配は少なそう。ただし祖国に戻りたいという思いは同じのようだと、指摘する。</li> <li>・周辺国の難民キャンプ、レバノンでの難民が生活に満足しないのは、難民の流入が多すぎて、支援不足に陥っていること。もともとシリア難民が、生活水準が高い人たちであったことが要因であると指摘する。</li> </ul>	15
	<p>3 難民の受け入れ</p> <p>(1) 「映像③難民の受け入れ (5:00)」を視聴する。</p> <p>(2) 何故ヨーロッパでシリア難民受け入れの是非をめぐる問題が起こっているのか、またその解決法として考えられることはないのか、グループで話し合い、発表する。</p> <p><b>【想定される課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テロリストが偽装難民として紛れ込んでいる可能から、住民の安全が脅かされる心配と恐怖。</li> <li>・表面的に異質な存在(服装・食文化・信仰)を受け入れたくないという漠然とした拒否反応。</li> <li>・国の財政負担が大きくなるのではないかと心配。</li> </ul> <p><b>【想定される解決策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テロリストが入れないように入国チェックを厳しくすればよいのではないか。</li> <li>・国際機関や国際社会で、受け入れ国に対して財政支援するシステムを作ればよいのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シリア難民が大挙して押し寄せている第三国のヨーロッパ諸国での近年の動きについて、何故ヨーロッパでシリア難民受け入れの是非をめぐる問題が起こっているのか考えつつ、映像視聴させる。</li> <li>・視聴後、何故、ヨーロッパでシリア難民受け入れの是非をめぐる問題が起こっているのか、またその解決法として考えられることはないのかグループで話し合わせ、発表させる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・難民を受け入れる側でも、経済的、心理的に負担・不安は大きい。日本を含めて、国際機関や国際社会で、受け入れ国の負担・不安を軽減する努力をする必要があることを示す。</li> </ul>	10

	<p>4 日本は、難民の受け入れのために、どのような対応・配慮・対策が必要になるのか具体的に話し合い、まとめ、発表する。</p> <p>【想定される発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・差別をしたり、偏見を持つことがないよう、学校や職場などで、「難民」について知るための取り組みを行う。</li> <li>・イスラムの人たちを受け入れるという性格を持つので、地域や行政が、ハラルメニューを出す店舗や礼拝所の普及に積極的に支援していく。</li> <li>・難民が日本で就学・就労できるように、語学訓練、就労訓練などの機会を増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2017年2月、日本政府はシリアの難民のうち、留学生を、2017年から5年間で最大300人を受け入れることを発表し、シリア難民への門戸が開かれた。今後、本格化する難民の受け入れに、日本社会ではどのような対応・配慮・対策が必要になるのか、具体策をグループで話し合わせ、発表させる。</li> <li>・留学生の家族も一緒に来日することになっていて、その中には学校へ通ったり、仕事についていたりという者もでてくる。また彼らはイスラム教徒であるといった、生徒が考えるヒントを与えていく。</li> <li>・発表後、日本は従来、UNCHR(国連難民高等難民弁務官事務所)への拠出金も世界第二位と、難民支援への貢献度は大きいながら、「難民受け入れに冷たい」と国際的に非難されてきた。難民認定の基準も国際基準からみて厳しかった。しかし欧米のシリア難民受け入れがかなり厳しくなっている中で、今回の留学生受け入れが決まったことをあげ、将来的に難民の受け入れは増える情勢であり、その受け入れを真剣に考える時期に入ったと告げる。</li> </ul>	10
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・難民の受け入れについては、持続可能な社会を実現するために、世界全体で取り組まなければならない課題であることを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・難民問題は、難民だけでなく、難民受け入れ国にも大きな負担を強いるものであり、世界全体で協力して取り組むべき課題であるとしめす。</li> </ul>	5

5 評価の観点

① 関心・意欲・態度	グループ内の話し合いに積極的に参加し、発表することができたか。
② 思考・判断	教師の提示資料に対して、的確な考察をすることができたか。
③ 技能・表現	自分の考察結果を、的確な表現で発表することができたか。
④ 知識・理解	難民問題は、世界全体で協力して取り組むべきものだとして理解できたか。